

4.2 現行国有林収穫予想表との比較

民有林収穫表と、その地域に該当する現行国有林収穫予想表との比較を行った。なお、表 4-1、表 4-2 に整理した通り、都県によっては樹高、胸高直径、ha 当たり本数の情報が得られなかったため、得られた都県のみで比較を行った。また、茨城県と千葉県は主林木・副林木の区別がされているため主林木の値を用いた。そのほかの都県では区別がなされていないため副林木を含めた平均と思われる点に留意が必要である。

林齢ごとの平均樹高（地位指数曲線）の比較を図 4-1（スギ）、図 4-2（ヒノキ）に示す。直線で示された民有林収穫表の値と、点線で示された国有林収穫予想表の値を比較すると、茨城のスギ、山梨のスギ、東京のスギ・ヒノキ、千葉のヒノキではいずれも民有林の地位区分で最下位近くの曲線に近いところに国有林の点線が分布している。一方で、新潟のスギ、福島のスギでは国有林の方がやや樹高が低いものの大きな違いはなかった。山梨のヒノキでは曲線の形状が民有林と国有林とで異なっていた。

林齢ごとの平均胸高直径の比較を図 4-3（スギ）、図 4-4（ヒノキ）に示す。山梨の収穫表では間伐のタイミングに応じて段階的に成長するような形式となっており、曲線の形状が大きく異なっていた。他の地域ではおおむね民有林収穫表の中間の地位よりもやや下に国有林収穫予想表が位置していた。

林齢ごとの ha 当たり本数の比較を図 4-5（スギ）、図 4-6（ヒノキ）に示す。おおむね国有林の収穫予想表と近い値をとっているが、山梨のスギ（良質材）では国有林収穫予想表の方が本数は少ない値をとっていた。逆に、千葉、静岡のスギでは国有林収穫予想表の方が高い値となっていた。ヒノキでは大きな違いはなかった。

林齢ごとの ha 当たり材積の比較を図 4-7 (1)・(2)（スギ）、図 4-8 (1)・(2)（ヒノキ）に示す。スギ、ヒノキともに、国有林収穫予想表の方が大幅に過小評価となっている地域が多かった。栃木では国有林収穫予想表と大きな違いはなかったが、国有林収穫予想表の値がない 60 年生以降において、民有林収穫表では地域によって大きく傾向が異なっていた。また、山梨、静岡の収穫表では間伐のタイミングに応じて段階的に成長するような形式となっており、曲線の形状が大きく異なっていた。

以上の比較結果から、地域によって違いはあるものの、民有林と比べて国有林の収穫予想表の方が、樹高、胸高直径、材積の予想値が概ね下方に位置する傾向があることがわかった。

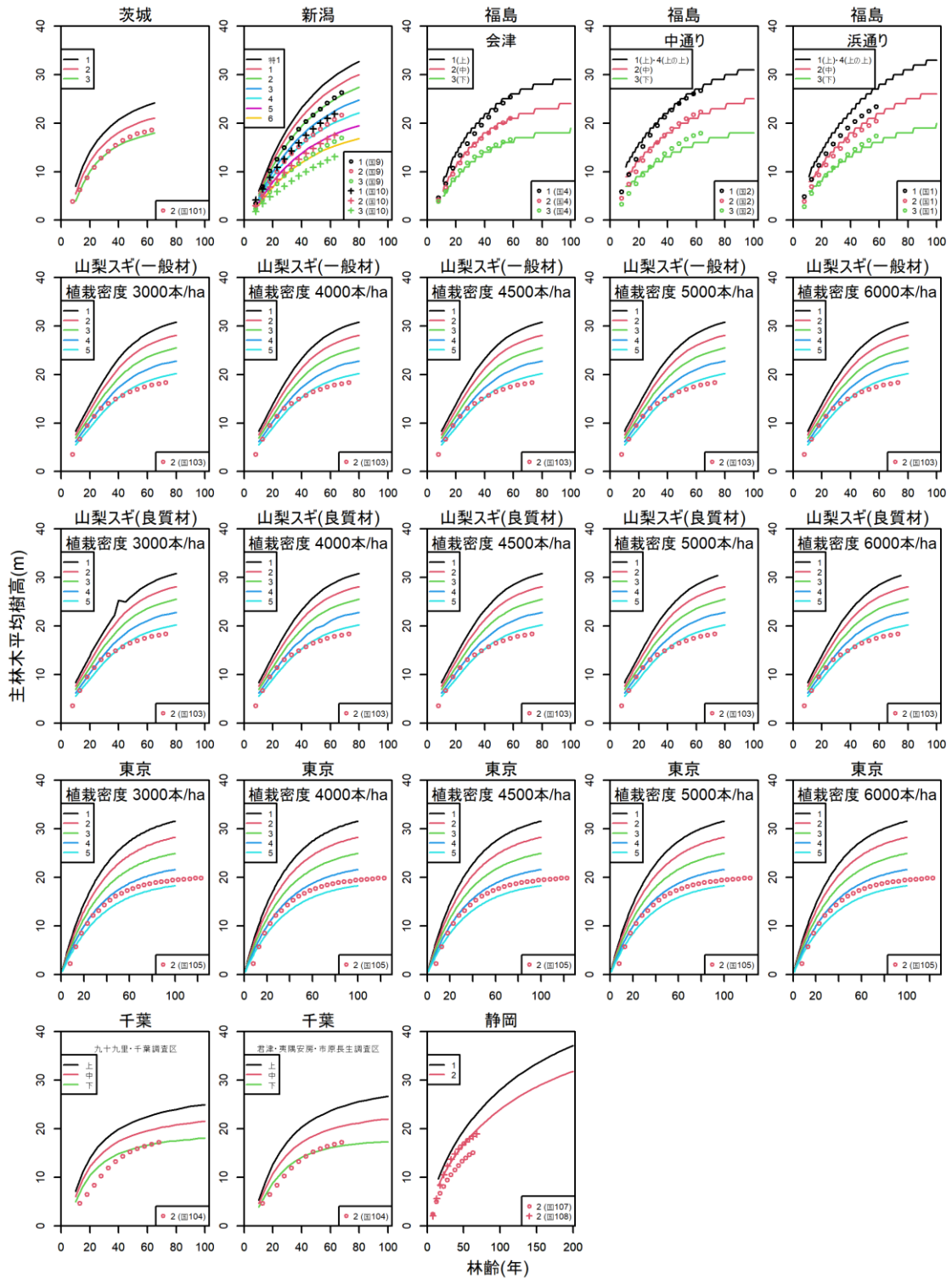


図 4-1 民有林収穫履歴と現行国有林収穫予想表との比較(スギ・樹高)

※直線が民有林、点線が国有林。括弧内の(国 101)等の数字は国有林収穫予想表番号を示す。
茨城県・千葉県は民有林収穫表は主林木の値、そのほかの都県は主林木・副林木の区別なし。

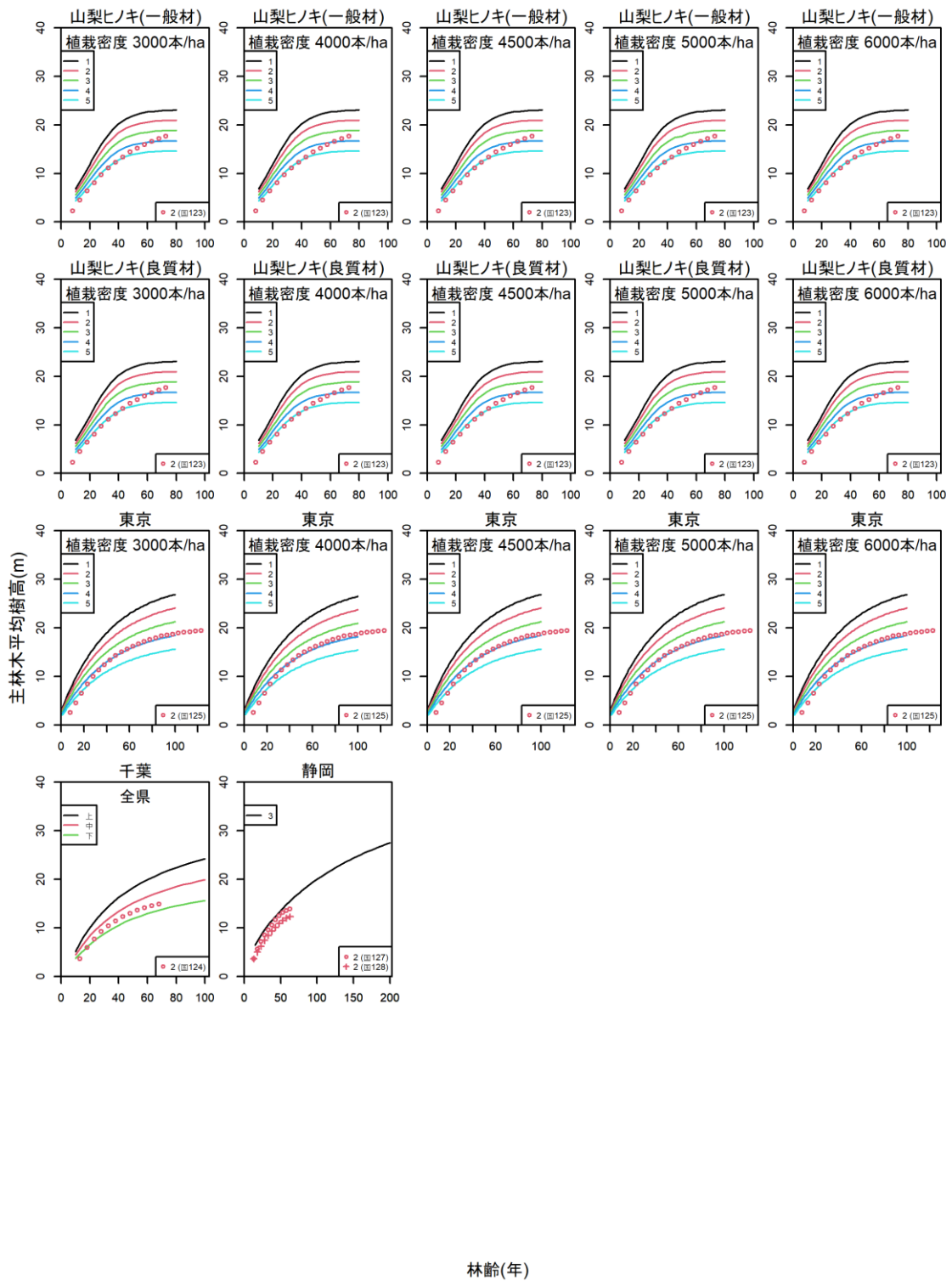


図 4-2 民有林収穫表と現行国有林収穫予想表との比較(ヒノキ・樹高)

※直線が民有林、点線が国有林。括弧内の(国 123)等の数字は国有林収穫予想表番号を示す。
茨城県・千葉県は民有林収穫表は主林木の値、そのほかの都県は主林木・副林木の区別なし。